

令和6年12月20日

長与町議会議長 安藤 克彦

研修報告書

長与町議会議員研修要綱第7条第2項の規定により、次のとおり公表します。

1. 研修名（主催者） 令和6年度市町村議会議員研修[2日間コース]
「議会改革を考える～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開～」
全国市町村国際文化研修所（JIAM）
2. 研修日時 令和6年10月21日～22日（2日間）
3. 研修場所 全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）
4. 研修目的 議員の資質向上および議会の活性化に資するため
5. 研修参加者 安藤 克彦 議長
6. 所見（成果）

10月21日	開校式・開講オリエンテーション ①地方議会の展望 早稲田大学 名誉教授 北川 正恭 氏 ②「議会改革度調査」から見る地方議会 早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村健 氏 ③住民参加・情報公開を進める取組①（事例紹介・質疑応答） 石川県加賀市議会副議長 上田 朋和 氏
10月22日	④住民参加・情報公開を進める取組②（事例紹介・質疑応答） 宮城県柴田町議会 議長 高橋 たい子 氏 ⑤各議会における今後の議会改革推進の検討 （ワールドカフェ方式によるダイアログ→発表→講評） 早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏

①の講義では議会基本条例を基本とした議会改革の進め方について講義。議会の役割や民意の反映から政策立案、提言までについて解説があった。参加者は比較的当選回数が若い議員が多く、その人たち向けの基本的な内容であった。質疑の中では、それぞれの議員が自分の議会の改革に対して不満をぶつける場面が多く見られ、質疑を拝聴する中で本町議会を改めて見直す良い機会となった。

②では最新の議会改革度調査を基に、全国地方議会の先進事例の紹介があった。特に情報公開では主権者は住民であるという基本的な考えの基、情報公開の在り方については考えさせられるものがあった。特に議会の入口となる傍聴者への対応については「傍聴規則」の改正も含めて検討する必要があると感じた。

③④では地方自治体議会の議会改革事例の紹介

○ワールドカフェ方式の自由討議導入→議案審議前に論点整理を行い、自由討議を実施。→面白い取組であり、全議員が共通認識を持って議案審議に入れるメリットがあるが、時間がかかりすぎる事、論点整理の段階で纏まらないとその後に進めない問題があると感じた。

○基本条例の目的達成状況を検証。チェックシートを活用した検証と結果を活かした行動計画の策定。条例で定めた2年毎に実施。検証サイクルも確立されている。最後には議会アドバイザーの評価ももらい、今後議会がどう進むべきかの指針となる。→少なくともチェックシートの導入については本町議会でも検討すべきと考える。それにより自分たちがどれくらい実施出来ているのかの根拠となる。シートは公開されているので、参考としたい。

○ICT導入（タブレット関係）実際に災害発生時にオンラインでの全員協議会を開催、また情報収集や伝達にも活用→コロナ化で導入し、活用の幅を広げている。訓練等も行っているために、実際の災害時に有効に活用できているようだ。本町でも導入予定だが、普段の活用とともに、緊急時を想定した訓練を行い、いつでも活用できる準備が必要である。

○議会おでかけ教室の開催→議員が小中学校に出向き、議会の概要説明、意見交換を行う。→主権者教育の側面もあるが、議会を身近に感じて貰うためにも検討したい取組である。同様な取組として「こども議会」が挙げられるが、準備に労力を要することからなかなか実施には至っていない。